

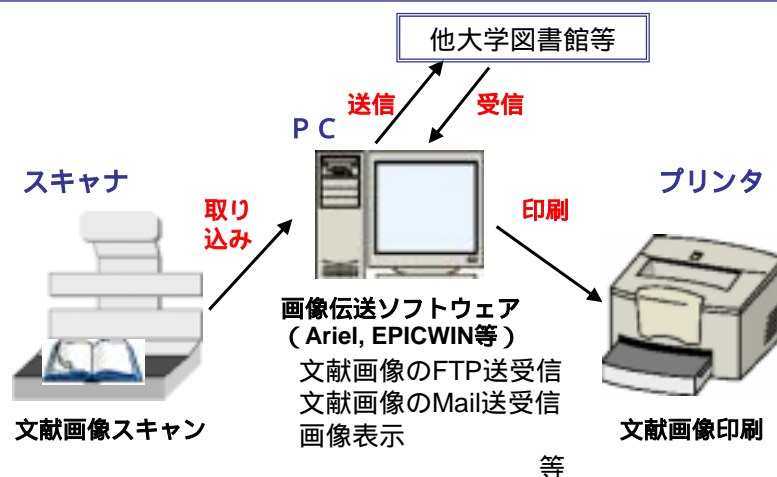
文献画像伝送システムの実際

Global ILL Framework(GIF) と
画像伝送システムの活用研修会
2003.12.11

東京工業大学附属図書館

熊淵 智行

文献画像伝送システムの構成



文献画像伝送システムの利用

ILL 受付館：文献画像スキャン 送信

ILL 依頼館：文献画像受信 印刷

【利用のメリット】

文献複写依頼から複写物受領までの所要時間短縮

文献発送事務の省力化

紙資源，送料等の節約

文献画像伝送システムによる文献受領

G I F における依頼時の I L L レコード記述

- SPVIA : ARIEL
- CMMNT : NOTE=ARIEL= (IPアドレス) 等

米国では文献画像伝送システムとしてArielが使用されているため，自館がEPICWINであってもARIELと記述。

送付方法として，文献画像伝送システム(Ariel)を指定した場合，**依頼館の受信用 P C は常時起動**しておく必要あり。

米国での標準的なスキャンサイズはレターサイズ
(基礎知識として)

文献画像伝送システムによる文献送付

著作権との関連

スキャナの機能利用

(枠消し , 指消し , 曲がり補正 etc.)

米国では文献画像伝送システムとしてArielが使用されているため、自館がEPICWINであってもARIELフォーマットで送信。

相手館のPCが起動していないと届かない(FTPの場合)

米国ではレターサイズが標準(基礎知識として)

ネットワーク接続上の留意点

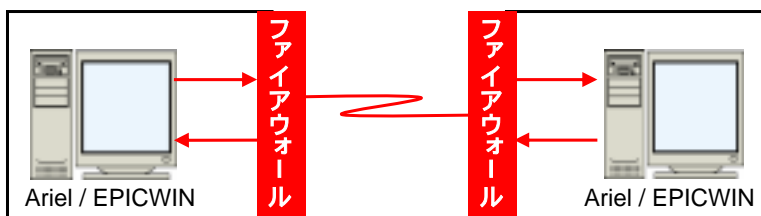
電子メール添付

送信側・受信側の容量制限との関連

(文献画像 1 ページあたり 50 ~ 100KB = 白黒 2 値)

ファイル転送 (FTP)

Firewall等によるネットワークセキュリティとの関連



ネットワーク設定の詳細確認

送受信に使用する「ポート番号」等の詳細等

Ariel

Ariel Homepage

<http://www.infotrieve.com/ariel/index.html>

Ariel Information Center

<http://www.infotrieve.com/ariel/ricari.html>

EPICWIN

「コニカミルタビジネスソリューションズ株式会社」の
説明文書を参照(問い合わせに応じて送付とのこと)

上向きスキャナの有効活用

資料を傷めずコピーが可能

文献画像スキャン 印刷

貴重資料，和装本，劣化資料，厚みのある資料等
の複写

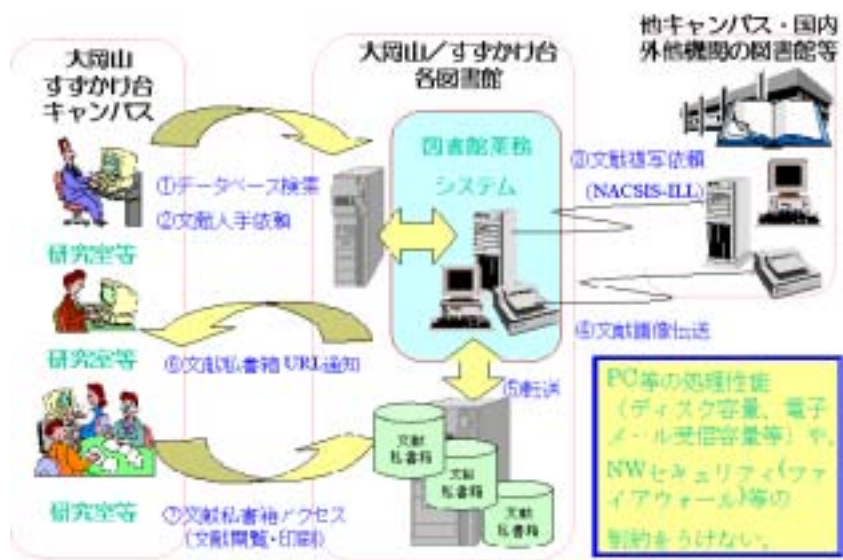
資料電子化（文献画像スキャン データベース化）

学内研究成果（学位論文等）の電子化

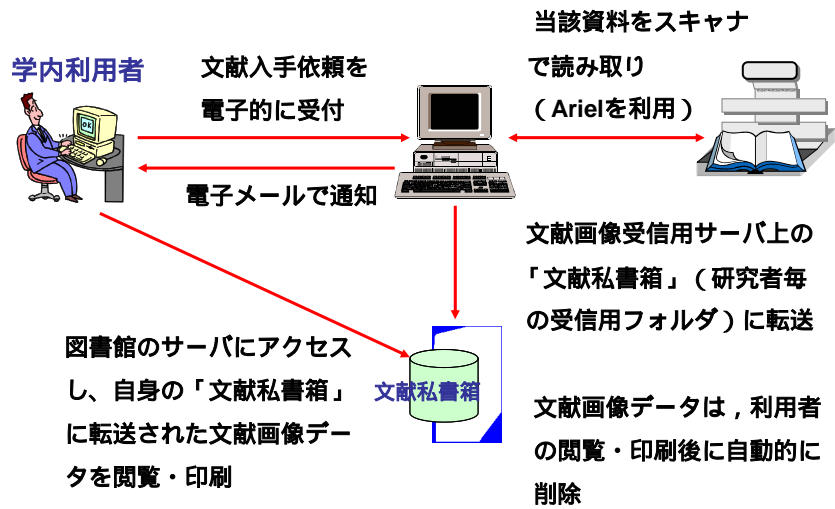
e-DDS(Electronic Document Delivery Service)サービス

研究者の文献入手依頼から文献入手(閲覧印刷)までを一体化させた文献画像伝送サービス

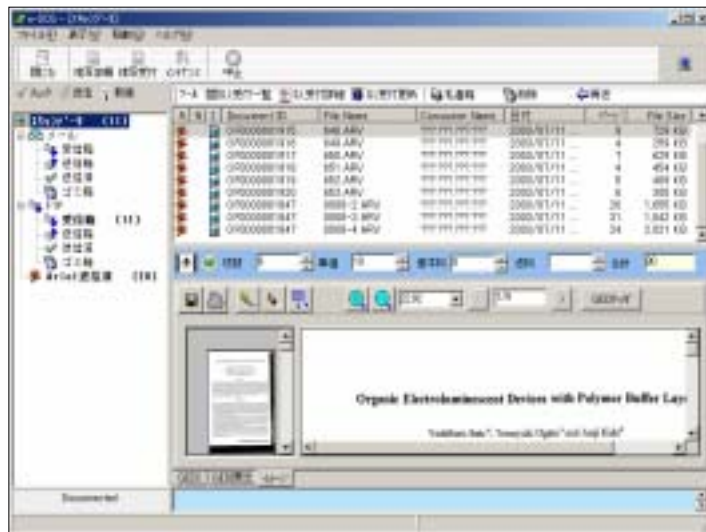
構内回線(学内LAN)を通じた学内ILLサービスとして平成15年1月から運用開始



e-DDSサービス 処理フロー（現在の運用）



「文献私書箱」への転送画面



利用者認証

附属図書館HP, OPAC検索画面等複数の入り口を用意



文献複写依頼

依頼内容はILL業務システムに自動反映。

SwetScan,
TDLデータベース,
OPAC, WebCAT
等
と連動

文献複写状況確認

図書館業務システムの処理状況を自動反映。

文献私書箱への文献到着を確認(E-mailでも通知)受領ボタン押下

文献画像受領 (PC上での閲覧・印刷)



各利用者の文献私書箱に送信された文献画像を当該利用者のみが利用可能

利用後の画像はシステムが自動削除

研究室に居ながらにして文献複写依頼～複写物受領

文献入手依頼から受領までのすべてを電子的に行えるため、依頼・受領のために図書館カウンターに出向く必要なし

研究室等のネットワーク環境に依存しない

学内LANに接続し、サーバにアクセスするだけで、パソコン等の処理性能やディスク容量、電子メールの送受信容量、ファイアウォール等による各研究室のネットワークセキュリティ上の制限等を受けない

| | 学内ILL総件数 | e-DDS件数 | e-DDS利用率 |
|----------------|----------|---------|----------|
| 平成14年度(1月~3月) | 941件 | 369件 | 39.2% |
| 平成15年度(4月~10月) | 2402件 | 1307件 | 54.4% |

